

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月23日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300092号
法人名	医療法人 恒心会
事業所名	グループホームイーストサイドおぐら
所在地	鹿児島県鹿屋市笠之原町29番39-1号 (電話) 0994-41-7420
自己評価作成日	平成23年12月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは同一法人内に小倉記念病院、おぐらリハビリテーション病院と2つの医療機関をはじめ、さまざまな介護保険事業所も揃っております。その中にある当イーストサイドおぐらでは、医療連携先である訪問看護ステーションことぶきによる健康管理や緊急時の対応、又おぐらリハビリテーション病院より、医師が直接ホームへ来所され、ホーム内での訪問診療を平成21年9月頃より継続して行っている等、利用者の健康管理の充実を図っております。利用者が中・重度状態となっても可能な限りの利用の維持・受け入れを行っております。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年1月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成19年12月に開設され、協力医療機関として小倉記念病院やおぐらリハビリテーション病院があり、定期的な往診診療や、24時間体制で体調不良時や急変に対応したりなど、充実した健康管理を行っており、それが利用者や家族の安心に繋がっている。ホーム内に身体拘束廃止委員会を設置し、言葉の暴力やベット柵や抑制ベルトの廃止などについて事例をあげ、安全が保たれる対策を話し合い家族の協力を得ながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。災害対策については、毎月自主訓練を行うことや、毎日の管理日誌に日常点検チェック項目を掲げて点検するなど、防災に対する意識が高い。食事の献立は管理栄養士が行い、委託業者で調理をする。おやつや敬老会、父の日や母の日などの行事食は職員手作りのもてなしで楽しんでいる。家族参加の行事やイベントを多く計画し、家族との関係を大切にしながら、職員や家族間で利用者を支えていく関係を築いている。車椅子利用者に対し、車椅子のままの生活でなく食卓では椅子やくつろげるソファを利用したりなど、メリハリのある生活支援や、手すりでの立ち上がり訓練など意欲を引き出す工夫が望まれる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示すると共に、職員各自のネームケースにも入れ、朝礼時で理念の唱和も行っている。職員一人ひとりが理念を共有し意識付けをもちながら日々実践に取り組んでいる。	理念は開設時に、地域密着型サービスとしての意義を踏まえ作成している。事務所内やネームプレートに掲示、毎日の朝礼時にも唱和し、職員の意識付けを図っている。理念の実現に向け、日々実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	知人来所や家族面会にて日々の交流を図っている。地域行事においては、町内で行われた避難訓練へ参加した。法人主催の健康フェスタでは店を出したり、地域周辺のゴミ拾いを実施、地域への貢献と交流に努めた。	託児所との交流、小中学生の福祉体験や職場体験実習を受け入れられている。校区の防災訓練に職員が参加したり、ホームの夏祭りにも地域住民の参加をもらい交流の機会を作っている。	事業所の力を生かした地域貢献や地域に開かれたホームとしての機能の活性化のための、さらなる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	現在、職員の中にキャラバンメイト1名、認知症サポーター2名いるが、サポーター養成等の実施には至っておらず。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的に開催しホーム内の状況や活動内容等の報告をしている。委員の方々より様々な立場からの意見や感想、提案等を頂いており、運営に反映している。	定期的に開催し、家族代表については交代での全回参加をお願いしている。避難訓練を兼ねた会議では、参加者の意見や評価を生かし、避難場所道路整備につなげるなどサービス向上に活かしている。議事録は玄関に置き自由に回覧できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議委員として参加を頂いている。入退居報告や事故報告、制度上の質問や相談を時には市役所へ出向く等し助言を受けている。又メール等を活用し、市よりさまざまな情報を頂く等、日々連携を図っている。	日々、制度についての情報交換や相談などを受けることで、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内の全体ミーティングにて年1回は勉強会を実施し職員の共通理解に努めている。マニュアルを作り、ホーム内に身体拘束廃止委員会を設置、毎月1回は話し合いの場を設け、全職員身体拘束をしないケアが出来るよう、意識付けをしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、ベット柵や抑制ベルトの廃止、言葉の暴力などについて話し合い、意識付けを行っている。職員は利用者の状態を把握し、外出する時にはさりげなく同行するなど、対応している。日中は施錠せずに安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の全体ミーティングにて年1回は勉強会を実施し職員の共通理解に努めている。マニュアルを作り、ホーム内に高齢者虐待防止委員会を設置、毎月1回は話し合いの場を設け、全職員虐待防止の意識付けをしている、特に言葉使いに気をつけてケアを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内の全体ミーティングにて年1回は権利擁護及び成年後見制度についての勉強会を実施している。現在利用者の中では権利擁護及び成年後見制度の活用事例はない。		

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用約款・重要事項説明書等を用いて、契約の締結・解除について説明し同意を頂いている。今の所、契約内容に大きな改正等はないが、来年度の制度改定を踏まえ、変更等があれば説明をしていく		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族等の意向等を反映できるようご意見箱を玄関に設置、また外部の方々に分かるように苦情・要望等に関する内容の掲示、入居時に説明を行っている。出たご意見は職員間で話し合い、反映できるように努めている。	面会や電話連絡時に、職員が家族の意見や相談事を聞きだすよう心がけている。毎月、担当者からの言葉も添えた近況報告を出し、信頼関係を築くなど家族等が意見を言いやすい環境を作っている。敬老会、夏祭り、遠足など家族参加のイベントも多く、家族と接する機会を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ホーム内の全体ミーティングやユニットミーティングを実施し、職員の意見を出し話し合う場を設けている。業務内容については随時、意見を反映し改善に取り組んでいる。	申送り時や職員会議での意見などを、利用者の身体状況に応じた介助に反映させている。レクリエーションなども職員からの意見を可能な限り実施し、職員の意欲・向上につなげている。資格取得に向けた支援も行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりと個人面談を実施、また相談等にも随時対応しながら職員個々の考えを再確認している。職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に可能な限り努めている。		

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>目標管理シートを使用し、個人面談時にて職員の段階に応じた育成に努めている。毎月ホーム内の勉強会をはじめ、法人内研修会、外部研修等も全職員へ随時情報提供し、積極的に参加しながら日々専門性を高める努力を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム連絡協議会に加入をし、研修会参加を通じて交流・情報交換等に努めている。地域向けのセミナー開催にあたっては、同業者と協力して積極的に研修会運営に参加をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に利用者の状況等の情報収集を行い、事前に職員へ状態把握を行っている。本人と家族との面談でそれぞれ意向を確認し、不安を取り除いている。また本人が安心して過ごせるように他利用者としやすい環境が作れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後も家族と連絡を取り合い本人の状態の報告を行い、家族からの要望を聞き出すように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居サービスを開始する段階で本人と家族からの要望を伺い、当法人内に限らず、他のサービスについても説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介護を行うのではなく、利用者と職員と一緒に暮していると考え、お互いが必要と感じる関係が築けるように日々努力している。		

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員へのねぎらいや感謝の言葉を頂くことがある。家族との関係も大切にしながらお互いに利用者を支えていく関係を築いている。利用者や家族との関係も大事にしていけるよう心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話の中から利用者の思いや要望を聞き出し、また家族からも情報を聞き出し、可能な限り計画を立て実施している。	自宅訪問や行きつけの美容院の継続利用など、行きたい場所への外出支援をしている。小規模を利用している家族、姉妹、地域住民との面会を支援し、なじみの人との親交を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやイベントを計画し、利用者が一緒に参加し交流を図れるようにしている。職員も利用者の中に入り、関係作りやコミュニケーションがとれるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に連絡し利用者の状態や経過を聞き、もし何か困った事などあった時はいつでも相談して下さる様に伝え、いつでも相談や支援することに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や家族の情報によって把握している。職員同士で話し合いを行い、計画を立てて実行するよう努めている。	家族からの情報や日常の会話や行動、また表情から職員間で利用者の思いや意向を話し合い、把握できるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで生活してきた暮らしを本人や家族から情報を聞き、その人らしい生き方を十分に尊重しながらサービスを提供するよう努めている。出来る所から職員と話し合いをもつようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で一人一人が出来ることを一緒に行い、それぞれが出来る事を支援し、可能性を探りながらどうすればよいか日々努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族を交えて意見を聞き介護計画を作成している。日頃の会話や行動を観察しながら状態把握に努め、意見を共に出し合いながらケアに取り組んでいる。	本人や家族の希望を聞き、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月ごとに評価とモニタリングを行い、個々の心身状況に応じて現状に即した介護計画を作成している。	



鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア統一の為に利用者ごとの状態に応じた支援方法を個別に記録している。個別にケア指示簿を作成、職員間でケア方法に関する情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	嚥下に問題がある利用者へは隣接するおぐらリハビリテーション病院の言語聴覚士へ相談し直接ホームへ来て頂き、必要に応じた相談・助言を頂いている。又歯科衛生士の方も同様、口腔状態を見て頂き必要に応じた相談・助言を頂いている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小中学校の職場体験・介護基礎研修生の実習、ボランティアの受け入れは積極的に受入をしている。イベント行事等にもいろいろなところから協力を依頼し、利用者に楽しんで頂けるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向にあわせ、一部訪問診療の実施を含め定期的にかかりつけ医の診察が受けられるよう職員にて付添い・介助を実施している。また診察時情報提供を行ない、体調・精神面での助言・指導を受け適切な医療を受けている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援している。受診は定期的に訪問診療が行われ、受診結果は家族への報告も含め職員も情報共有できている。医療連携体制の構築で家族の安心にも繋がっている。	

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を日常生活から本人の表情・行動・言動等の変化に気付くことが出来るよう状態を把握し、医療連携先である訪問看護師へ定期的に情報提供をしている。気になる事あれば随時相談し、必要であれば必要な看護の支援を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は情報提供書を作成し、入院先の医療機関へ情報提供を行っている。又面会を行い利用者の状態を確認、担当看護師からも情報を頂き状態等の把握に努めている退院に関しては医療相談員と連絡・連携を取り、スムーズな受け入れ等の調整を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族に対して、入居時に方針を説明、緊急時の場合も含めた意思の確認をし同意を頂いている。状況に応じて医師や看護師へ必要な関係者と協議する体制は整っている。今までも希望に応じて看取り介護を実施してきた。	看取りの指針を作成し、入居時に説明して同意書をもっている。状態に変化があればその都度確認を図っている。緊急時における意思確認や同意書も取っている。看取りの経験もあり、チームとして支援できている。訪問看護師のもと職員は勉強会も開き、看取り介護への対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに添って行う体制を整えている。ホーム内での勉強会を実施、心肺蘇生法やAED操作訓練の道具も揃っており、実技訓練を実施、いつでも訓練できる環境は整っている。		

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防計画に添って、消防署の協力のもと避難訓練等を実施している。ホーム内の自主訓練も行い日々防災に関する意識付けに努めている。消火機器等に異常等ないか日常点検も実施している</p>	<p>夜間を想定し避難訓練を実施したり、隣接する施設などとも話し合いが行われ協力体制ができている。スプリンクラーや自動通報システムも設置し、毎日の管理日誌に細かく点検確認事項を記載して災害を出さない徹底した取り組みができている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関するマニュアルに添って対応している。特に利用者に対して丁寧な言葉遣いで接するように心掛けているが入居者の機嫌を損ねるような声掛けを行った際は職員同士で互いに注意し合っている。	プライバシーや接遇については、定期的に法人内研修を行っている。職員は接遇マナーをネームプレートに置いて熟知し、利用者に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が安心して職員に声を掛けてもらえるように常に優しく声掛けを行っている。また利用者にレクリエーションや体操等への参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人によって生活リズムがあるので本人の気持ちを尊重し、利用者の希望に添って一日を過ごして頂けるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々に応じて髭剃りや整容の支援を行っている。散髪は希望に応じ散髪の出張サービスを利用しており、本人の希望に応じた散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士にて行い、委託業者にておかずを調理、ホームではご飯と盛り付けと食べやすいよう加工を行っている。手作りおやつや行事等には利用者と一緒に準備をして頂いている。	朝食はご飯かパン食かが選択でき、飲み物も利用者の意向に沿って支援している。毎回の調理はしないが、父の日や母の日、鍋パーティや敬老会のバイキングは職員の手作りで楽しんでいる。ソバうちや手作りのおやつは、利用者と共に作っている。個別に外食を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立に基づき利用者1人1人の栄養バランスを配慮した食事を提供している。食事量、水分量については記録を残し状態を把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを実施、利用者の能力に合わせて可能な限り自己にて実施、必要あれば仕上げ磨きを行っている。困難な利用者へは介助にて口腔内清潔に努めている。必要あれば歯科衛生士へ相談やアドバイスを頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導・声かけを行っており、各利用者の排泄の時間帯に合わせた介助を行っている。利用者から排泄の訴えがある時も本人に合わせた介助で行っている。	日中はできるだけ布パンツを利用し、誘導によるトイレでの排泄を支援している。介助を必要としない利用者も数名おり継続できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防又は対応については水分、食物繊維が含まれている物を摂取して頂いている。また腸の動きを良くする為に腹部マッサージ等も含め運動を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	意向がなければ、基本的に週3回、順番に不平等にならないように入っている。拒否傾向の方に対しても臨機応変に対応をしている。浴室に音楽を流す等、気持ちよく入浴を楽しんで頂ける様援助を行っている。	浴室に音楽を流し、気持ちよく入浴してもらえよう取り組んでいる。週3回、午前中入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間帯に合わせて声掛けを行い昼寝時には居室ベッドに休んで頂いたり、リビングのソファでくつろいで頂いている。就寝時等ベッドに休まれる際は本人が安心できる様に声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を確認し分からない点があったら主治医や訪問看護師、薬剤師に確認し説明、助言を受けている。ケア指示簿を活用し、薬の変更や注意点等あれば記載し、職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活暦を参照し家事をされていた方は洗濯物たたみ、おしぼり巻き等をして頂き、役割を与えられるように支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外に散歩に出掛けており外の空気を吸って気分転換をして頂けるよう支援を行っている。また利用者や家族の要望に応じていつでも外出、外泊が出来るように必要な支援を行っている。	日常的な散歩以外にも初詣やドライブ、お弁当持参の遠足や季節の花見、みかん狩りや県下一周駅伝の応援などに出かけている。個別の夕食や外出支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要望を聞き一緒に買い物をしたりしている・基本的に事業所にて現金を管理し、必要に応じ支払いを行っているが、希望に応じて利用者にお金を渡すこともある。			
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者から要望があった時には家族へ電話が出来るように援助している。又電話がきたら、静かな所で話しが出来るよう配慮を行っている。今のところ手紙のやり取りは行えていない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、花や貼り絵等で季節感を演出し、BGMには懐かしい歌を流すなど、常に工夫をしている。浴室には音楽を流すなどし、気持ちよく入居して頂ける様な配慮も行っている。	リビングや畳スペースは、思い思いにくつろげるスペースを確保し、壁には季節を感じる利用者の製作物や写真など掲示して、陽ざしが入る明るい空間になっている。時には音楽を流したりして、穏やかに過せるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれリビングや居室で自由に過ごされている。ソファーでは眠られたりゆっくりされたりしている。リビングではテレビの見やすい場所、気の合う者通しで場所を近くする等、座る位置にも配慮を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの物を持ち込んで頂いている。日々環境整備に努めて、安全に生活ができる居室を提供している。</p>	<p>使い慣れた物品や小物、家族の写真などがかざっており、また、身体状況に応じて洋服掛けの調節を図るなど、本人が居心地よく過ごせる居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の自立支援を促す為にホーム内に危険と思われる障害物はその都度取り除き、自己にて行えるよう環境整備にも努めている。それぞれの箇所（トイレや浴室等）には分かるように張り紙をしている。</p>	/	/



**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームイーストサイドおぐら 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない